

## 2018年3月期 第3四半期決算電話カンファレンス 質疑応答記録

日時： 2018年1月31日（水）14:00 ～ 14:45

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

広報・IR グループリーダー 小林 太郎

### 4Q 通期業績について

Q1 : 通期の業績予想を修正していますが、前提条件を教えてください。

A1 : 4Qの国産ナフサ価格は47,500円、石炭価格は3Qから若干上昇し、豪州炭の足元値に準じた価格を使っています。値上げは、苛性ソーダと塩ビを2月以降に予想に織り込んでいますが、セメントの値上げは4月以降となりますので織り込んでいません。

Q2 : 4Qの多結晶シリコンの販売数量は3Qよりも増加すると思いますが、価格は上昇するのでしょうか。

A2 : 4Qに価格が上昇する要素は大きくないと思いますが、顧客との来年度の交渉の中で将来の需給バランスや品質に対する評価も考慮され、多結晶シリコンの価格に対するトレンドは変わってきたと感じています。

Q3 : 通期の業績予想のPLについて、経常利益よりも下の動きを教えてください。

A3 : 特別損益は収支としてプラスマイナスゼロ、法人税等が110～120億円、非支配株主に帰属する当期純利益は60億円前後で見えています。

### 3Qまでの実績について

Q4 : 特殊品の中で2Qから3Qにかけて減益となったものはありますか？

A4 : 国産ナフサ価格が上昇したためスプレットが縮小し、ICケミカルが若干減益となりました。そのため、12月にIPA・SEは価格修正を打ち出しています。

Q5 : 「その他」はこれまで堅調ですが今後はどうなりますか。

A5 : 「その他」にある余剰電力販売量は、工場の稼働が増加する4Qは減少します。

来年度も新しいプラントが立ちあがりますが、現在徳山製造所で進行しているコスト削減活動「BRIGHT II」により、製造所プラントにおいて電気の使用量削減を達成し、外部販売できる電力量が減少しないように取り組んでいます。

以上